



会宝産業株式会社
専務取締役 馬地 克哉

1958年生まれ、中央大学経済学部卒。銀行勤務を経て2000年、会宝産業株式会社入社。2003年専務取締役に就任。海外事業部統括責任者として、海外展開に取り組む。



2010年に会宝産業が行った自動車リサイクル研修の様子。参加者のひとり、ミナスジェライス州国立工業技術大学のダニエル教授のはたらきかけて、ブラジルでの事業展開を決めた。



ブラジルでは廃棄物処理に関する法制度の整備は進んでいるが、使用済み自動車に関する規制や処理制度は未整備で、解体技術も低い。会宝産業では南東部のミナスジェライス州で、解体技術の普及を行っている。



PROJECT
REPORT

日本の技術、世界を変える ODAを活用した中小企業海外展開支援

ブラジルの自動車リサイクル環境を改善 ガーナでは果物加工事業に社員を派遣

自動車リサイクルや使用済み自動車の部品輸出などを手がける会宝産業（石川県金沢市）では、

JICAの中小企業海外展開支援事業を活用し、ブラジルで「環境配慮型自動車リサイクルシステム」の普及・

実証事業」を展開している。また同社はJICAのボランティア制度を活用し、

グローバル人材育成を目標に社員をガーナへ派遣した。二つの取り組みについて話を聞いた。

ブラジルの自動車解体の課題と 貴社の事業内容をお教えください

ブラジルは自動車販売登録台数が年間380万台（2013年）にもなる自動車大国です。当然、廃棄される自動車も少なからずあるのですが、使用済み自動車の解体や部品のリサイクルなどは、まだまだ「産業」として確立されていません。車両は手作業で解体され、その技術レベルは低く、労働安全衛生上の問題は山積しています。廃油や鉛による土壌汚染、フロンガス放出などの環境問題も無視できません。

さらに自動車解体に関しては許認可制度がなく、これに従事する個人や中小企業の多くは納税義務を果たしていません。法制度が整っていないために、

の法律にのっとったライセンスの取得が必要になりました。導入する設備なども現地で認可されたものでなくてはなりません。日本製の設備・機器を使うには、輸出入で煩雑な手続きが避けられませんし、現地調達するにしても、業者選びは簡単ではありません。加えて、事業展開に先立ち、知的財産権をいかに保護することも課題になりました。

しかし今回はJICAの支援事業ということもあり、JICAはもちろん、JETRO（日本貿易振興機構）の現地事務所にもご協力いただいたのが大きかったですね。現地のコンサルタントや弁護士をご紹介いただき、これらの課題に対処することができました。

アフリカではJICAの 民間連携ボランティア制度を 活用されたそうですね

アフリカのガーナに青年海外協力隊員として、弊社の山口未夏を派遣しました。現地では、地域おこしや女性グループの収入向上のために果物類をジュースやジャムに加工・市販化する活動をしました。彼女はもともと「アフリカで働きたい」という思いを抱いていましたが、海外での勤務経験はゼロ。初の海外勤務で途上国に派遣するべきか躊躇していたところ、JICA北陸より「民間連携ボランティア制度」のことを聞き、利用することになりました。この制度で何よりありがたかったのが、

自動車解体が社会の発展に結びついていないのです。

そこで「自動車リサイクル技術教育センター」を設立することで、これら諸課題を解決しようと考えました。弊社は日本で中古エンジン品質規格を確立した実績があるので、その経験を活かそうというものです。弊社が提案する技術教育センターでは、まず、自動車の解体や、中古部品の管理・販売などの技術・運営指導を行います。次に、これらの技術と経営ノウハウを普及させ、ブラジル全体で使用済み自動車の適正処理やリサイクルシステムが整備されることを想定しています。これにより都市環境問題の改善、労働者の技術レベルの向上と雇用促進、さらには環境企業家の育成を目指しています。

安全面への配慮です。派遣前の訓練で言語や安全対策の研修があるほか、JICAの現地事務所による情報提供体制などがしっかりしていたので、女性一人でも安心して送り出せました。生活費や往復渡航費などもJICAが負担し、人件費の80%補てん制度もあり、たぐい助かりました。

派遣は2014年9月からの2年間でした。海外の習慣や価値観は、実際に生活しなくてはわからないため、山口にとっしては駐在経験そのものがかけがえのないものになったと思います。勤務1年で派遣したため、弊社としては具体的なメリットというよりも、ほかのスタッフに刺激を与えているという点で効果がありました。現在は海外バイヤーと国内協力業者との仲介を主に担当していますが、本人は弊社のアフリカ展開に際して派遣を希望しているので、今後は要員として活躍してもらいたいと思います。

（※当該制度の詳細は下記コラムを参照ください）



JICAボランティア（青年海外協力隊）としてガーナに派遣された会宝産業の山口未夏さん（左）。果物の加工事業を推進することで、現地の女性グループの収入向上を支援した。

JICAの海外展開支援事業は どのように活用されていますか？

そもそもブラジルに技術教育センターを設立しようと思ったきっかけが、2010年、弊社で行ったJICA地域別研修（中南米・自動車リサイクルシステム構築）に参加されたブラジル・ミナスジェライス州国立工業技術大学のダニエル教授が、リサイクルシステムの重要性を認識され、帰国後にさまざまな組織・機関にはたらきかけを行ったそうです。その後ダニエル教授からの呼びかけでブラジルでの事業展開を決めました。その際、JICAの中小企業海外展開支援事業を活用させていただくことにしました。

今回の事業では、ブラジルに自動車リサイクル施設を建設するため、現地

民間連携ボランティア制度のご案内

企業の国際貢献とグローバル人材育成の場として、青年海外協力隊等ボランティア派遣を活用いただく「民間連携ボランティア制度」をお勧めします。青年海外協力隊やシニア海外ボランティアは、言葉・文化・習慣等すべてが日本と異なる開発途上国で、現地の人々とともに組織の一員として活動します。派遣期間は1年または2年間、派遣前には言語の習得を含めた70日間の派遣前合宿訓練を行い、派遣中は現地のJICA事務所が健康面・安全面でのサポートをしっかり行っています。ボランティア活動を通じ、海外でのビジネスに欠かせないグローバルな視野や柔軟性、逞しい精神力、コミュニケーション能力、忍耐力などが培われます。現地での生活費、住居費、往復の渡航費、派遣前訓練経費はJICAがカバーします。また中小企業の皆様には、最大8割の人件費補てん制度をご利用いただけます。

お問合せ

独立行政法人国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局 参加促進・進路支援課

所在地 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル TEL 03-5226-9323

E-mail jvtpc@jica.go.jp URL http://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/company/cooperation

北陸地域
（富山県・石川県・福井県）の
「中小企業海外展開支援」に
関するお問合せ

独立行政法人 国際協力機構
北陸支部（JICA北陸）

所在地

石川県金沢市本町1-5-2
リファール（オフィス棟）4F

TEL

076-233-5931

URL

https://www.jica.go.jp/hokuriku/



今回の支援地域

ブラジル

ガーナ